

(平成31年2月19日)

第32回 赤松小三郎研究会のご報告

日時： H31. 2. 19 (火) 18:30～21:00

場所： 東京・文京シビックセンター 4F B会議室

出席者：16名

< 配布資料 >

- 資料—1 ●「憲政記念館の赤松小三郎建白書レプリカ展示の経緯」 赤松小三郎研究会作成
- 資料—2 ●「寄付金箱の設置について」 赤松小三郎研究会作成
- 資料—3 ●「赤松小三郎・浅津富之助『英国歩兵練法』とその周辺(二) 河元由美子氏作成
- 配布資料 ●「幕末兵学者の英書翻訳 —赤松小三郎・浅津富之助訳 『英国歩兵練法』を中心に—」

< 紹介図書 > 丸山瑛一氏から以下の図書の紹介があった。(丸山瑛一氏経由で購入すれば割引特典あります)

和根崎 剛編 「信濃 上田城」 戎(じゅう)光祥出版
— 徳川軍を撃退した不屈の堅城 —

< 内容 >

1. 「赤松小三郎と『英国歩兵練法』—その問題点を探る」・・・河元由美子氏

詳細は添付の資料—3をご参照

- ・赤松小三郎の刊行されている書籍は少ないが、青山忠正先生、大橋敦夫先生、岩下哲典先生、関良基先生などに赤松についての著作がある
- ・「英国歩兵練法」の原書が出揃ったのは慶応2年(1866年)である。
- ・「英国歩兵練法」翻訳本の刊行は下曾根稽古場板(慶応元年)から始まり、明治16年まで11種類の翻訳本がある。
- ・安政条約批准交換のため「ポーハタン号」を外国へ派遣したが、航海中に船中でヘンリー・ウッド牧師が英語塾を開き、佐野鼎、佐賀藩士らが、英語を習い、英語習得に貢献した。

- ・歩兵練法には、仏式・・身体運動に重点、蘭式、英式があるがそんなに相違はないと思われる。
- ・クリミア戦争（嘉永6年（1853年）～安政3年（1856年））以降は戦術の変化から騎兵は役立たずということがわかり、仏式は棄てられた。
- ・翻訳本の絵図はよく出来ており、専門の絵師に描かせたと思われる。

- ・まとめ

図版の模写は赤本（薩摩蔵版）の方が鮮明で正確である。青本（下曾根稽古場板）の赤松と浅津の翻訳に対する姿勢が翻訳文から窺える。赤松にとってこの翻訳はライフワークのような重い存在であり、几帳面、生真面目さが忠実な記述に現れており、「静」の学者タイプ。浅津は英語の才を活かした翻訳であり、彼の経歴が示す如く、蒸気学、航海学を専門とする武人、「動」の人とを感じる。

以上

第33回赤松小三郎研究会からは土曜日開催に変更します。

4月13日（土）14：00～17：00

文京シビックセンター4階B会議室です。

土曜日の午後に変更しました。ご注意ください。

小山平六（62期）